



2023年8月14日

各位

会社名 H P C システムズ株式会社
代表者名 代表取締役 小野 鉄平
(コード番号: 6597 東証グロース)
問合せ先 取締役管理部長 下川 健司
(TEL. 03-5446-5530)

「中期経営計画 Vision2024」の業績目標修正のお知らせ

当社は、2021年8月12日に公表した中期経営計画「Vision2024」の最終年度である2024年6月期の数値目標を下記の通り修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 修正内容

(単位:百万円)

	2023年6月期 実績	2024年6月期(最終年度)		
		当初目標	修正目標	増減率(%)
売上高	8,854	10,000	7,500	△25.0
営業利益	258	1,280	755	△41.0

2. 修正の理由

当社は、2021年8月12日に、Beyond2030に時代を超えて生き続ける「コンピュータサイエンスを基軸とした世界を代表する21世紀のビジョナリーカンパニー」、その通過点として2030年までに「グローバルニッチトップ企業」を目指しております。そこからバックキャストイングして、「スーパーコンピュータからエッジコンピュータまでのコンピュータサイエンスを駆使したソリューションを提供し、顧客の学術基礎研究から産業界の先端研究開発を加速支援する国内ニッチトップ企業としてポジションを確立」を基本方針に、2022年6月期の初年度から2024年6月期を最終年度とする中期経営計画「Vision2024」を発表し、各戦略目標達成に向け取り組んでまいりましたが、策定当初と比べて、社会や産業のデジタル化に伴う半導体/電子部品の需要拡大に加え、新型コロナウイルス禍に端を発する世界的な行動制限や工場閉鎖といった複数の要因を受けた世界的な半導体/電子部品の需給のひっ迫、エネルギーコストや物流費の上昇、為替相場の急激な円安進行も重なり、事業環境が大きく変化しております。

今後の見通しにつきましては、世界的な金融引き締めによる景気下振れリスク、ウクライナ情勢の長期化や為替相場の急変動、コロナ禍以降のサプライチェーンの混乱による半導体/電子部品不足から一転して当社のターゲット市場の在庫過多による在庫調整の長期化、また、昨今の世界的な生成AI開発競争に伴うAIやスーパーコンピュータ向け高性能画像処理半導体GPU(Graphics Processing Unit)の急激な需要の増加に伴う部品不足からの長納期化・入手性悪化等、引き続き先行き不透明な状況にあります。当社が属するコンピューティング業界におきましても、計算科学シミュレーション、クラウド、人工知能(AI)、ディープラーニング、ビッグデータ処理等、民間企業や大学等公的機関の研究開発部門における研究開発及び設備投資は拡大の傾向にあると見込んでおりますが、景気後退リスクやGPUの入手性リスクを注視していく必要があります。

このような中、当社は中期経営計画「Vision2024(2022年6月期~2024年6月期)」「売上高100億円、営業



利益 12.8 億円への挑戦」の最終年度を迎えますが、前述のとおり社会経済情勢は中期経営計画策定時の前提とは大きく異なる状況が続いております。

為替相場につきましては、中期経営計画策定時と比較し、概ね 30%程度の円安となっており、主に原価上昇の要因となっております。また、ターゲット市場における継続顧客につきましては、在庫調整の影響のため、受注に至るまでの期間が通常の 1～3 か月に対し、概ね半年から 1 年程度必要な状況となる等、受注獲得までの期間が長期化しております。部材の調達につきましては、特に高性能画像処理半導体 GPU の入手性が悪化しており、最低でも半年以上の納期がかかるという状況となっております。このような経営環境の急激な変化の影響により、当初目標達成には時間が必要となることから、2024 年 6 月期の目標を修正することといたしました。

なお、「スーパーコンピュータからエッジコンピュータまでのコンピュータサイエンスを駆使したソリューションの提供」という基本方針は変更せず、中期経営計画で掲げた重点施策は変更せず、引き続き実施してまいります。

(注) 上記目標値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって目標値と異なる可能性があります。

以上